

関電の原発マネー還流事件を徹底究明し、原子力からの撤退を求める集会決議

3億2千万円もの巨額の金品受領という、関電の前代未聞の醜悪な事件が発覚した。関電はこれを長期にわたって隠ぺいし、自らは「被害者」だと強弁してきたが、社会からの強い批判と非難によって、八木会長等は辞任に追い込まれた。

今回の金品受領事件は、原発マネーの還流そのものだ。関電の原発工事の発注から始まり、高浜町の土木建設会社と高浜町元助役を通じて、経営と原子力部門トップに金品が渡っていた。その原資は電気料金だ。

関電は、2011年の福島原発事故被災者や避難者の苦悩を省みることなく、再稼働最優先のために、工事の「特命発注」等々で地元推進派との癒着を深めていった。工事発注を通じた地元対策であり、関電の原発強行推進が生み出したものだ。コンプライアンスやガバナンスの欠如は底なしで、関電の傲慢な体質そのものだ。私たちはこれらを断じて許すことはできない。

関電は、トップの辞任と12月下旬公表予定の「第三者委員会の報告」で批判をかわそうとしている。しかし、関電が指名した委員会では徹底究明は不可能だ。真の徹底究明を行う場が今こそ切に求められている。

関電は高浜3号、大飯3・4号の運転を続けている。定検で止まっている高浜4号の原子炉起動を予定通り12月中旬にも強行しようとしている。高浜1・2号、美浜3号の寿命延長工事も継続し、2020年に計画地点公表予定の使用済燃料「中間貯蔵施設」探しもあきらめていない。

国会では、野党の合同チームが追及を強めている。政府・与党は関電幹部の国会招致を拒否し、無責任を決め込んでいる。監督官庁の経産省は、関電任せに終始。原子力規制委員会は「科学技術的観点から行う審査になじむものではない」と我関せずを決め込んでいる。高浜1・2号、美浜3号の老朽化対策工事の中止を命ずることもなく、淡々と審査を継続している。

原発推進を国策として進めてきた政府の責任も重大だ。福井県選出の自民党稲田議員や前経産大臣の世耕議員も、元助役関連会社から献金を受けていた。関電の原発マネーの闇は深く、長期にわたっている。大飯原発・美浜原発での調査、政治家の関与、さらに他の電力会社でも同様の問題はないのか等々、全てが究明されなければならない。

事件の幕引きを早めようとする関電だが、社会的批判が強まる中で、老朽原発高浜1・2号、美浜3号の再稼働、中間貯蔵施設の計画地点公表は困難になっている。若狭の原発から30km圏内の京都府や滋賀県等の自治体からは、住民の怒りの声を背景に、関電に「裏切られた」と批判の声が強まっている。自治体への申入れや議会での意見書採択等、関西での取り組みを一層強化していこう。中間貯蔵施設が狙われている和歌山県では9月に、住民団体が核廃棄物施設の立地を拒否する条例制定を求めて白浜町長に申入れ、運動を推し進めている。名古屋地裁では、老朽原発高浜1・2号、美浜3号の廃炉を求める裁判が闘われている。

福井と関西の運動、そして全国各地の運動と、一層連携を強めていこう。

関電に危険な原発をこれ以上運転させてはならない。

- ・ 関電の「原発マネー還流」を徹底究明し、金品を受領した20名は辞任せよ！
- ・ 高浜4号の12月中旬原子炉起動阻止！ 運転中の高浜3号・大飯3・4号の運転停止！
- ・ 高浜1・2号、美浜3号の老朽原発延命工事を中止し廃炉へ！
- ・ 原発推進のための使用済燃料「中間貯蔵施設」、サイト内乾式貯蔵施設の建設を断念せよ！

関電は原子力から撤退を！